

令和6年度神奈川県立鶴見支援学校

第2回学校運営協議会開催結果

<p><開催日時> 令和6年10月23日(水)</p>
<p><開催会場> 鶴見支援学校</p>
<p><参加者> 8名(欠席2名)</p>
<p><会議資料> ○開催要項 ○令和6年度 第2回学校運営協議会部会について ○学校評価(中間評価) ○パワーポイント資料</p>
<p><委員からの意見等概要> ○校長挨拶 ○会長挨拶 ○参加者挨拶 <学校評価部会> <視点1教育課程、学習指導について> 1年間の目標は学部間の系統性、他学年、他学部を意識した授業づくり、児童・生徒が将来必要となる力を身につけられるような授業改善。系統性は、鶴見支援学校としての一貫性ある教育活動によって作られる。その意味で、校内研究と連携し、学部、学年で身につけたい力、学習のねらいを意識した授業実践が行えたか、また教科ごと、他教科とのつながりを意識した授業実践が行えたかがポイントになる。 ①の学校目標、学部目標(で身につけたい力)を意識した授業づくりは、身につけたい力がはじめにあり、各授業での取組をどのようにするか考える。例えば中学部の学部目標にあるキーワード、「協力」では友達と一緒に物を運ぶ活動を設定する。「役割や課題を意識」では、授業内での係を設けたり、作業日誌に目標を記入したり、「自ら考える」というところでは、いきいきタイムで活動を選択する経験がそれにあたる。学校目標や学部目標は教科、単元を貫いた、超えたところにあり、目標達成のために、各教科、学習で何をするかということになる。校内研究では今年度は「学びの山場関連計画」を作成した。例えば身につけたい力が「ルールを守って、集団の中で活動する力」であれば、学級活動では自己紹介をしてクラスの生徒の名前を覚えること、体育のスポーツテストでは順番を守ること、総合で行う校内探検では校内地図を見てクラスで行動すること、音楽では場面をイメージして表現することで、集団で活動になれるようにすること、家庭ではごみの分別、生活単元学習絵は校内ルールの確認といったように、力を身につけるための、各教科での取組について検証している。②教科単位の身につけたい力は、教科の活動内容によって身につけたい力が変わってくる。また児童・生徒個々の力によって、段階的な目標立てとなる。 学部間の系統性は、児童・生徒の実態によって作られる個人の段階や目標ではなく、教科として学習する学部学年ごとの内容となる。音楽であれば、例えば小1から楽器演奏の経験を積み、小6では合奏できるようになる、中学部では難易度の高い演目にも挑戦する、高等部では複数の楽器で複数の曲を演奏するといった、段階を年間計画で作っておき、それに基づいて授業を進める。 校内研究によって身につけたい力を整理し始めたことで、学部目標に基づいた学部内での身につけたい力が見える化できてきた。ここを固めることが、他学部との違いを明確にすることであり、一貫性のある、系統的な教育課程につながるのではと考えている。 指導支援グループより、研究の取り組みについて。3年間の研究の3年目になる。令和4年度は教科の年間計画、ねらいの整理。昨年度は学校教育目標から、各学部でどんな力を身につけたいかを考えた。今は両方がどのようにつながっているかを意識しながら、より身につけたい力が何か、系統性は何かということを考えているところ。「学びの山場」というのは造語で、児童、生徒が学んだことの力を発揮する場面としている。身につけたい力を「自分で選び表現する力」とすると、音楽や美術、生活単元などいろいろな教科でその力を身につけていく。こういった内容を研究の中間報告会で学校全体共有し、他学部がどんな学習しているのか、具体的にどこで確認しあった。</p>

各学部室での取り組みとして「身につけたい力」を促進するために「学びの山場」に向けての授業実践を進めているが、今はそれぞれの学部室ごとになっているところを、教科間や学部間のつながりを整理して全体が見えるようにしていきたいと考えている。身につけたい力、児童生徒が将来必要となる力とはどんな力だろうということを出てくるキーワードのようなものを今挙げている。「発表する」の各段階は、友達の前で話をすること、先生から決められたメモをもらい、それを発表すること、また自分の考えを、自分で考えて発表することもある。発表の仕方、段階を考え、全体像が見えるように、学部室の取り組みを今後も継続していきたいと考える。

<視点2 児童・生徒、指導支援>

個別教育計画、多角的な視点でのアセスメントに基づき、担任、相談担当、心理職との連携を図り児童・生徒個々のニーズに合わせ支援を行った。他校他職種の専門職による巡回は、作業療法士3ケース、言語聴覚士2ケース、理学療法士3ケース実施。教材、支援グッズの共有については、夏季休業中に校内の廊下で教材教具展を実施した。昨年度よりスペースを広く取り、地域の小学校の研究会で来校した外部の先生方にも見ていただいた。出展したのは、校内の担任が普段児童・生徒と個別課題学習で使っているもの。教材・教具展が終わった後は、展示した教材をデータ化し、教員間で教材作成の参考になるようにしていく。

ブロック内専門職として中原支援学校からPT、あおば支援学校からOT、高津支援学校からSTが来ている。本校には心理職が常駐、県立の総合療育センターから精神科のDr.、横浜市立ろう支援学校から、教員を派遣してもらい、教員の学びとともに、児童生徒のニーズに合わせた支援につなげている。校内でも相談担当、心理職、進路の担当者が随時教室に入り、担任との情報共有をし、チームで子どもたちのニーズに合わせた支援を行っている。

小学部で既存のシラバスを活用し、授業の展開をしている。同じような活動をしているが、ねらいの部分で小学部低学年と高学年とで違いがあり、そういうところを活用し、学年間の学びの積み重ねを行っている。学校評価目標2については、小学部段階で必要な力について、校内研究を通して整理をし、ねらいを意識した取り組み、授業づくりを進めている。

中学部では心理職と連携し、小学部版アセスメントシートに続く中学部版を検討中で、中学部段階で必要と思われる項目内容を整理している。

分教室は自分たちの目標を自分たちで考える、身につけたい目標を自分たちで考えるというマンダラートを活用している。例えば緊張せずに皆の前で発表する、自分自身が自信を持って動く、自己肯定感を高めるということが、「内に向けた力」。「外に向けた力」はそれをどう活用して皆の前で発表する、人の前でしっかり挨拶する、自分の意見を発表することができる等の力。それらを教員がどう支援するかという考えのもと、組み立てているのが分教室の指導方針である。

<質疑応答・意見等>

- ・どの授業も知識技能を身につけて表現力や判断力を高めながら、更に毎日の生活でそれらの力を身につけていくという学習指導要領の作りになっているが、それが見えづらい。知識、技能がとても大事になってくるが、そこがぼやけている感じがする。いろいろな授業で表現力を高めるとあるが、教科が違っていても同じことをやっていて、教科の知識と技能をどう追求しているのかと思う。そういうところ見える化し、教科が持っている知識技能を追求してはと思った。

→各教科の身につけたい力のサンプルを挙げているが、鶴見支援学校で大事だと思う、ある程度コンセンサスが取れている内容、学習指導要領の内容とで考えている。将来的にこんな風に暮らしてほしいため「この教科だったらどんな力」ということを大事にしている。体育だったら健康でかつ運動習慣を生涯持続し、明るい生活を営んでいくような態度を身につけてほしいという大目標を挙げている。これは学校教育目標にも通ずるもの。そのために身体を動かす力では、小学部1年段階では具体的な行動目標として教師の手添えを受けながら最初は動き、中学部になると自分から動くとか、高等部仲間と共に動きができるというように大体のところ段階があるところまでは少し整理している。教科ならではの力も大事であることは話しているところ。

- ・心理職と連携し小学部段階のアセスメントシートを作成するとある。アセスメントというの

は、例えば漢字はどこまで書けるのか、数はどこまで数えられるのか等、心理職の守備範囲を超えたことが多くある。ここに数学の専門性がある方が入る等、高度な専門性が出てこない結局「表現力を高める」とかになってしまうので、心理職も良いがさらに教科という部分を考えてもらいたい。

→教科の専門の方ということに関しては、以前美術の専門の先生に来ていただき、教科の研究会等を実施したことがある。特別支援での教科の専門の方に今後も来ていただけるのではないかと考えている。

- ・毎回こういう評価があるところのような見解が出るが、いつも感じるのは受け入れる方の立場の話が中心で、生徒を本当にどこまで理解するか、どういったことができるようになったとか、あまり見えてこない。最終的には生徒のためにやっていること。その部分について、どういう形で整理をしていくか、我々に見えるよう、理解できるようなことも載せていただくとありがたい。

- ・色々な取り組みの中で提示されたところは本人のこうなりたいという姿の話。また、授業に対して満足できたり達成具合であったり、自己実現のところになるのかなと思う。

- ・企業から見ると、今言われたことはそのまま、それぞれの評価をしていく時は全て個人で全部評価する。その人の目標達成度がどうだったかというのは全部個人で分析する。1段階目の1次評価という風にやっていく。今発表を受けていると大体こういう風に取り組んできましたというのは確かにあるが、中間であれば、中間なりの生徒の皆さんがどうだったというところのまとめのものが一つあっても良い。非常に苦勞されている部分はよく見えるが、そのあたりが具体的に生徒目線というか、実際に教育を受けられている方の目線で、先生方あるいは保護者がどう感じているか、といったところがもう少しまとめられると次に役立つのではないか。

- ・アンケートがある。生徒たちは感想等表現することが難しい場合もあるので、保護者の方にアンケートをとりに意見等をまとめられている。

→大きい枠の中で、毎回同じような項目でアンケートを取っている。第3回の時にお示しできる部分があるかと思う。毎年どんなふう感じられたかというものになる。今は小中高で授業評価みたいなことを子どもたちはやっている。具体のところでの授業どうだったのかということについては、できるところから少しずつ考えていきたい。

- ・アンケートというお話があった。今の話し合いの中にもあったが、全員でなくても生徒さんたちができるところから始めていきたいというところがあるかなと思う。

- ・生活介護事業所での放課後デイサービスでは、学校に合わせた支援方法をそのまま取り組むことで、児童が過ごし方を迷わず、学校の力はすごく大きいと感じている。重度といわれる生活介護に行かれる方に関しては、私たちは非常に助かっている。

- ・分教室の「外に向けた力」というのはどのようなものが必要かというところをぜひ教えていただきたい。

- ・軽度の方の働かせたいというところでは分教室はいかがか。

→職業という授業の中では清掃の仕方では、学校ではほうきの持ち方、モップの扱い方等よりも、コミュニケーション面、休み時間の過ごし方、自分が困ったときに何を伝えられるということを学習してほしいと考えている。自分で考えて動くというところ。気づくことができたことを褒め、自分で考え自分で行動したことが評価されることが外に出る力に役立っていくということを考えて分教室では指導をしている。卒業してから学校に頼ってもらっても良い。学習をして経験を積む中で覚えていく。外に出たらいろいろな障害や雑音がある中で強く生きていかなければならない。

- ・お子さんを働かせたいという方がいるが、自分でサインを出すこと、回避の仕方を知ることが大切であると感じた。どのような形で具体的に何が必要か、必要最低限のことについて教えていきたいと思っている。ちょうど一年生が十年目になり、放課後デイを旅立つ時期に入るので、ぜひ意見を聞かせていただきたいと思う。

- ・全ての方がそれに該当するかという一人ひとり個々で違う。最近の傾向では、親御さんは、高等部であれば就職をあまり考えなくなってしまった。年金状況の問題があり、働いていると障害者年金受給がなかなか承認されるのが厳しくなるという気持ちがある。年間で500人くらいPTAの方、学校の先生方が見学に来られる。例えば挨拶は、小学校時代から家庭の中で通常にやっていること、会話の中できちんと身につけていくものであると思う。特例企業はあまり難しいことを求めている。基本的には挨拶ができる、指導員の言ったことに対し

て返事ができること。仕事は先ほど先生が言われたみたいうちの会社がやっていることとA企業がやっていることは同じ掃除でも全然違うので、全部我々が教える。そのために特例というのは指導員を5人に一人つけている。一般企業と言うのは一般社員さんの皆さんの中にポンと放り込んでしまう。トイレに行きたいと言っても、意図は伝わらない。進路担当とも確認しようと思っているが、最近は企業への実習の機会が少なくなっている。11月に入り、3年生の実習については終わったという感覚でおられる学校さんがほとんど。年を越えたら3年生の実習はほとんど来ない。逆に就職の内定が決まった方しか来ない。まだ就職が決まっていない方は実習に来ない。雇用部会としては憂慮している。うちの企業にも3分の1は職業的に重度の判定のある方がいる。企業はいろいろと苦勞をしている。袋にピンセットを使ってお菓子を入れる訓練等も仕事にしようというようなこともやっている。いろいろなことを経験させるということがやはり大事になる。1社落ちたから2社はいかないというのが結構最近が多い。でもその方と指導員との相性とか会社の相性がやはりある。そこを考えた時に、もう少し進路の方で、チャレンジ的なものをした方が、せつかく実習という実体験できる場が支援学校は認められているので、ぜひ社会参画、働くということが全てではないと思うが、そういったことをやると良い。

- ・求められている姿がいろいろあると思うので。意見を参考にさせていただけると良いと思う。

<視点3 進路指導・支援について>

連絡帳や保護者面談等で、児童・生徒、保護者の願い、個別教育計画に明記した身につけたい力について共有した。必要に応じ、進路や相談担当が同席し、卒業後の地域生活を見据えた情報提供を行っている。高等部は現場実習の振り返り、分教室はマンダラートを活用することで、各自が目標を振り返り、キャリア発達、これまで何をして、どのようなことができるようになったかということを確認した。②の学部に合わせてキャリア教育について、夏季休業中に、就労移行支援事業所の方を講師として、キャリア教育に関する研修会を実施した。参加者は地域から教員30名も参加した。企業や事業所見学は延べ133名の参加となった。進路学習教材の活用は、後期はデータ化を進め、必要な時に授業で活用できるシステムを作っていく。

地域連携グループからの補足。進路指導の手引きを保護者の方にお渡ししている。小学部1、4年生。中学部1、3年生、高等部1、2、3年生。本校のキャリア教育に関する考え方、本校のキャリア目標、小学部段階からご家庭の中でどういった取り組みをしていただいたいかということも含めて書いてある。後半は高等部入学後、進路に向けてどのようなスケジュールで取り組んでいくのかということを示している。小学部段階から高等部、卒業後の進路に向けてどう流れで進んでいくのか見通しを持ちたいという保護者の方のニーズが非常に大きい。夏休み中心に研修会を実施している。「安心して生きていくためのキャリア教育」、こちらは本校の教職員ならびに地域の支援級の先生方にもご参加いただいた。保護者対象の企業見学会はこれまでに89名が参加。福祉に関する見学会をこの後実施予定。教職員対象に夏休み期間を利用して、事業所や企業の見学会に44名が参加した。保護者の方に向けては、今後も福祉の見学会、PTA主催で見学会、先輩保護者の方を招いての学習会、冬には公開研修会も予定している。ニーズが非常に高く、地域との連携という意味で、色々とお力をお借りしたい。

<視点4 地域等との協働>

本校の教育活動を地域に発信していくことを引き続き行っている。Xの発信は63回。給食のメニューは毎日配信。「つるみアートギャラリー」は職員玄関前に展示し写真を校門前掲示板やHPに掲載している。後期は「かわさきふれあい作品展」、「トヨタ作品展」、「大倉山フェスタ」に作品の出展を予定している。夏季休業中に鶴見区小学校特別支援教育研究会の研修を本校で行い、教材教具の展示を見ていただいた。前期中学部では外部講師による出前授業、後期は小学部と中学部で、学年ごと合計4回、外部講師、団体によるダンスの授業を計画。小学部4年生は、今年度も駒岡小学校4年生との交流を計画。高等部は鶴見区商店街のマルシェに職業製品を販売。分教室は岸高祭、岸根公園感謝デイに参加。地域との交流を継続している。また地域支援の観点では、センター的機能による巡回相談を小中高合わせて13ケース実施。横浜市のコーディネーター協議会や小学校特別支援教育研究会への出席を通じて本校のセンター的機能を周知している。

地域連携グループからの補足。鶴見区小学校の個別支援級の先生方が集まる会議で、夏休み

は研修会を行っている。例年本校に研修会についての講師依頼があるが、今年度はあおば支援学校のOTより、子どもたちの見立て、OTの視点から有効な支援方法について話をさせていただいた。廊下には本校の教員が作成した教材教具を展示した。こういう機会を年に1回ではなくて、いかにHP等を利用して発信していくかというところも今後の課題として考えている。

本校のセンター的機能は今年度9月までの巡回相談が、小中高合わせて13回実施。今年度はすでに前期の段階で昨年度の年間の回数をクリアした形になっている。2学期も10月～12月とすでに予定が埋まっており、1週間に1回くらいのペースで地域の学校に巡回相談に伺うことになっている。昨年度の2倍程度にもしかしたらなるかもしれない。児童の離席を減らすためのグッズを持参することもあった。複数回巡回の実施の要望も出ている。

鶴見区のつくの商店街で行っているマルシェに高等部の製品を販売しに10月5日に参加した。こちらのマルシェは12月で終了になり、これに代わる場がないかといういろいろ考え探しているところ。こんな場面はどうかという話あれば教えていただきたい。

<視点5 学校管理、学校運営>

安全、安心な学校生活のために、今年度も引き続き地域の防災訓練へ参加した。校内では地震や火事を想定した避難訓練を学期ごとに実施している。毎回想定を変え、状況によって対応できる、実効的な訓練になるようにしている。震度5強の地震で教職員が学校に参集となる。携帯用のカードを職員に配付し、各自が意識できるようにした。万が一本校に地域の人が避難要請してきた場合に備え、地域へ貸し出すことが可能な部屋を決めたが、参集後の職員の具体的な動き、区役所との連携を詰めていくことが後期の早急の課題である。

②働き方改革だが、今年度プロジェクト会議を作り、そこで自由な発想で意見交換をした。回数は2回行い、そこで話し合ったことを、校内の会議の中で少しでも参考にできればと思っている。プロジェクト会議に先立ち、全職員から意見、改善策を集め、会議で共有している。

環境管理グループからの補足。M訓練は本校独自の実施だが、未公開、未通知という意味で、先生方に実施日は知らせるが、時間は通知せず訓練を実施している。ゆくゆくは日にちも伝えずに実施したいと思っている。また今月は引取り訓練も行った。希望者のみの実施で保護者40名の参加があった。主に大人の訓練であり、お子さん方は普通の教室で担任と残っていたので、大きな混乱はなかった。訓練を重ねると、先生の言うことを聞いて動ということが理解できてくる。学校全体としてもとても落ち着いた訓練ができていると感じている。本校では一人ひとりに防災ヘルメットを用意していて、小1からヘルメットをかぶるが、それにも慣れていくことが大事だと感じている。今は地震速報があれば机の下に隠れて、ヘルメットをかぶって移動するということが小1でも段々できてきているので継続していきたいと考えている。後援会会長様からご指摘いただいた災害用救援ベンダーという自動販売機の機能について、春の避難訓練時には必ず使い方を確認し、人が変わっても周知していけるようにしていく。10月の駒岡小学校の防災訓練にチームリーダーと一緒に参加した。当日の講演は区役所の方より、災害時の要援護者についての配慮というテーマでお話があった。知的障害をもっている方への配慮ということで具体的にお話していただいた。当日はたくさんの参加者があり、理解につながったと思う。また、駒岡地区にある放課後等デイサービスも2か所ほど参加があった。いざという時、学校に地域の方が来た際に、昼間は本校の児童生徒を安全に保護者に引き渡す、また地域の避難された方との住分けといったところで、この教室にいてくださいとし、道路状況や天候状況で落ち着いたらやはり地域の避難所の方へ案内し避難していただくというところも区役所の方と連携を取りながら考えていきたい。

学部より補足。小学部について、保護者と情報を共有することを大切にしていく。専門職、相談担当と連携しながら広い視点での子どもたちの実態を保護者と共有していきたい。駒岡小学校との交流は、ゲームなどを通し交流できればと考えている。中学部は自分らしい働き方、暮らし方、楽しみ方、自立を目指していけるように、面談等を通し保護者の願い、自身の願いについて共有をしているところ。ゲストティーチャーを活用した体験授業では、普段の先生とは違う、いつもと違う雰囲気の中で、より実践的な学びが達成できたかと考えている。高等部は、進路教材、実習材等を学年間において整理や情報の共有を行った。今後も継続していきたい。分教室では生徒が作成したマンダラートを保護者に見せることで、家庭でも活かしてもらっていると感じている。岸根高校とのかかわりが非常に大きく、高校の協力をとても得られおり、非常にうまくいっていると感じている。

<質疑応答・意見等>

- ・保護者の方といろいろと共有なさっていて、小学校、中学校、高校の時と、学校側が徹底した到達度、教える内容があると思うが、最終的には社会人として自立してやっていただきたい。そのための小学校、中学校、高校のカリキュラムだと思う。企業の求めているものが学校の方と共有できているか。最終的な目標がここだという風になると良い。せっかく良い機会ですので、皆で共有していただければと思う。
- ・私は今まで子ども一人自分の子どもに対して学校とやり取りをさせていただいて、本当に手厚くやっていただいているなど感じている。このようにしっかりと考えてくださっていて、それぞれの子どもに対してこのように考えてくださっているということ、改めて感謝の気持ちでいっぱい。これ以上こうしてほしいということは今すぐには特にはない。

<学校設置部会>

○部会の報告

(地域協働部会)

各学部の外部講師の方の取り組み、内部のつながりのこと等を共有した。後期は、地域協働部会発信の、保護者進路学習会実施計画を検討していくことになった。進路に関する情報共有、「企業と語ろう」のような形で保護者を対象にした会を設定していく。

(地域安全部会)

防災については心理的応急処置の方法ということと良いというお話をいただいた。支援の必要な方たちだけでなく、私たちがストレスがかかる時に心のケアの仕方を共有していることが大事だという話をした。また、災害については自分の身は自分で守ること。例えば学校が倒壊した場合なども想定して考えることも大事であるという話をした。そういう時こそ保護者同士の連携、保護者と教員の連携が大事で、それが今少し薄れている時代だからこそ、その協力関係を深めていこうことも必要。防犯については、最近指示されて強盗をするといった事件も起きている。子どもたちが加害者側になってしまうということも心配されるということで、本当に怖いことだなという思いがした。被害者にも加害者にもしないということで教えていくことがとても大事である。日常の安全ということではSBの接触事故について共有した。

○委員より(会の進行についての提言)

取り組んでいることはいっぱいあると思うが、今回は中間なので、どこまで到達しているのか、何が課題なのかということがあまり伝わってこない。評価の方法ということではA到達している、B推進中、努力が必要だったらC要努力とか、Dについてはプログラム改善とか。それが出てきた中で後期は何をチェンジするのかなということになると思う。そういうプレゼンをしていただいた方が、これだけの皆さん識者がいるので良い意見が出てくると思う。

○会長挨拶

○本校校長より

○事務連絡等

今回は2月を予定。

閉会